

平成 29 年 1 月 10 日

緩和ケアの集いご案内

※日本医師会生涯教育制度適合学術集会申請中

時下、皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

また平素は当院の運営につきましてご指導ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度二次医療圏内医療施設の職員の皆様を対象として、「がん医療の集い」を下記のとおり企画いたしましたのでご案内申し上げます。皆様のご参加をお待ちしております。

記

日 時 : 平成 29 年 2 月 8 日 (水) 18:20~19:30

場 所 : アルメイダ研修会館 5 階 研修ホール

18:20~18:30 情報提供 「リフレックス錠情報提供」

18:30~19:30 特別講演 座 長 医療法人社団親和会 衛藤病院 院長 衛藤 龍 先生

演題名 『緩和ケアに役立つ精神療法の基本 :

実存的アプローチについて』

演 者 大分大学医学部 精神神経医学講座 教授 寺尾 岳 先生

～要旨～

医療者は、当然のことながら、病気のことだけを話題にするのではなく、その患者自身の人生に目を向けた会話をすることが必要になる。これは実存的なかわりと表現しても良いだろうが、仕事にしても趣味にしても、あるいは家族のことにしても、どんなにささいなことでもその人なりに大事にしてきたこと、続けてきたことを称賛し、その人の自尊心が高まるように支持することである。さらに、その人が病気になったことで出来なくなったこと、あきらめたこと、制約を受けたこと、心理的・経済的な負担が増えたことなど、さまざまな苦勞を抱えることになった悔しさや歯がゆさに共感し、さまざまな苦勞をしながらもその人なりに病気と一生懸命に付き合ってきたことをしっかりと取り上げて敬意を表することも重要である。このように、医療者の側が患者の人生、特に深刻な病気と付き合いつつ大変な人生を生き抜いてきたこと自体を素晴らしいこととして、心からの敬意を表することができれば、患者自身は自分のありのままの人生を否定することも、病気から目をそむけることもなくなる。再燃や再発、病気の長期化、死への恐怖に対して患者が奮起するには、医療者が日ごろの診療の中で常に患者と実存的なかわりを持つことが要請される。そのようなやり取りの中でこそ、患者は自分に対するささかの自信が持て、自分を不条理に満ちた世界に向かっておずおずと開示し立ち上げていくことができる。このことが、患者が深刻な病気としっかりと向き合っていく姿勢を作り上げることに大きく寄与すると考えられる。

※参加を希望される方は 2 月 1 日 (水) までに下記の申込用紙にて F A X またはお電話にてお申し込み下さい。

※当日は軽食をご用意しています。

主催 : 大分市医師会立アルメイダ病院

共催 : Meiji Seika ファルマ株式会社

【お申し込み・問い合わせ先】 アルメイダ病院 緩和ケアチーム 長野 宛

電話番号 097-569-3121 (内線 3492) FAX 番号 097-569-9746

緩和ケアの集い参加申込用紙 2月8日(水) 開催

施設名 _____

	氏 名	所 属 部 署	職 種
1			
2			
3			